

官許
校正
增加
六諭衍義附錄
中之卷

9
3439
2



首書
画入六諭衍義大意附録

上之卷目次

青砥藤綱 太平記

佐川田昌俊 近世時人傳

下之卷

農夫庄助

白拍子静 駿臺雜詠

乞食八兵衛 同上

目次終

僧鐵眼 近世時人傳

醉茶翁

佛佐吉 續時人傳

馬郎孫兵衛 全

以上九人の事蹟ハ。祖父此常小語ヲ聞せたまふを父の記一ハッ

一 形。從來世に行ふ時人傳法始。諸書不出た。是よりい
 け説をな。駿星雜話。或ハ熊澤。白石先生法始と。諸名家論を附
 一 ぬ。醉茶翁。農夫庄助の小傳。祖父の人傳。又ハ其國小く記
 たる書法抽出。一 おろ。今度六諭行義大意法梓のりせ
 まつ。此書を附録と。一 ぬ。一 此書を讀み善小も。惡を
 除く。小補と。一 ぬ。祖父の幸甚。何事ハ是より入。

孫勝田知之謹誌

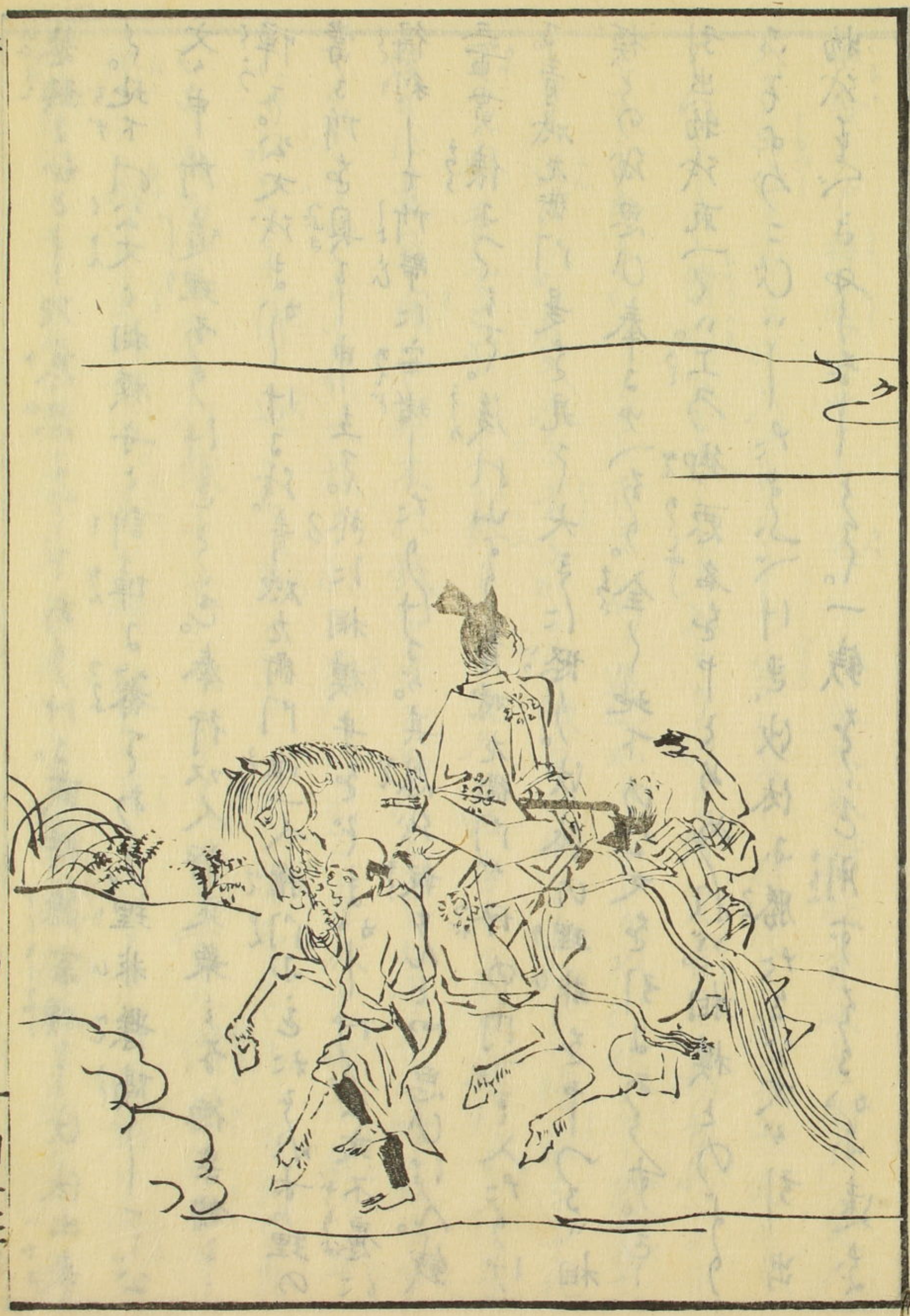
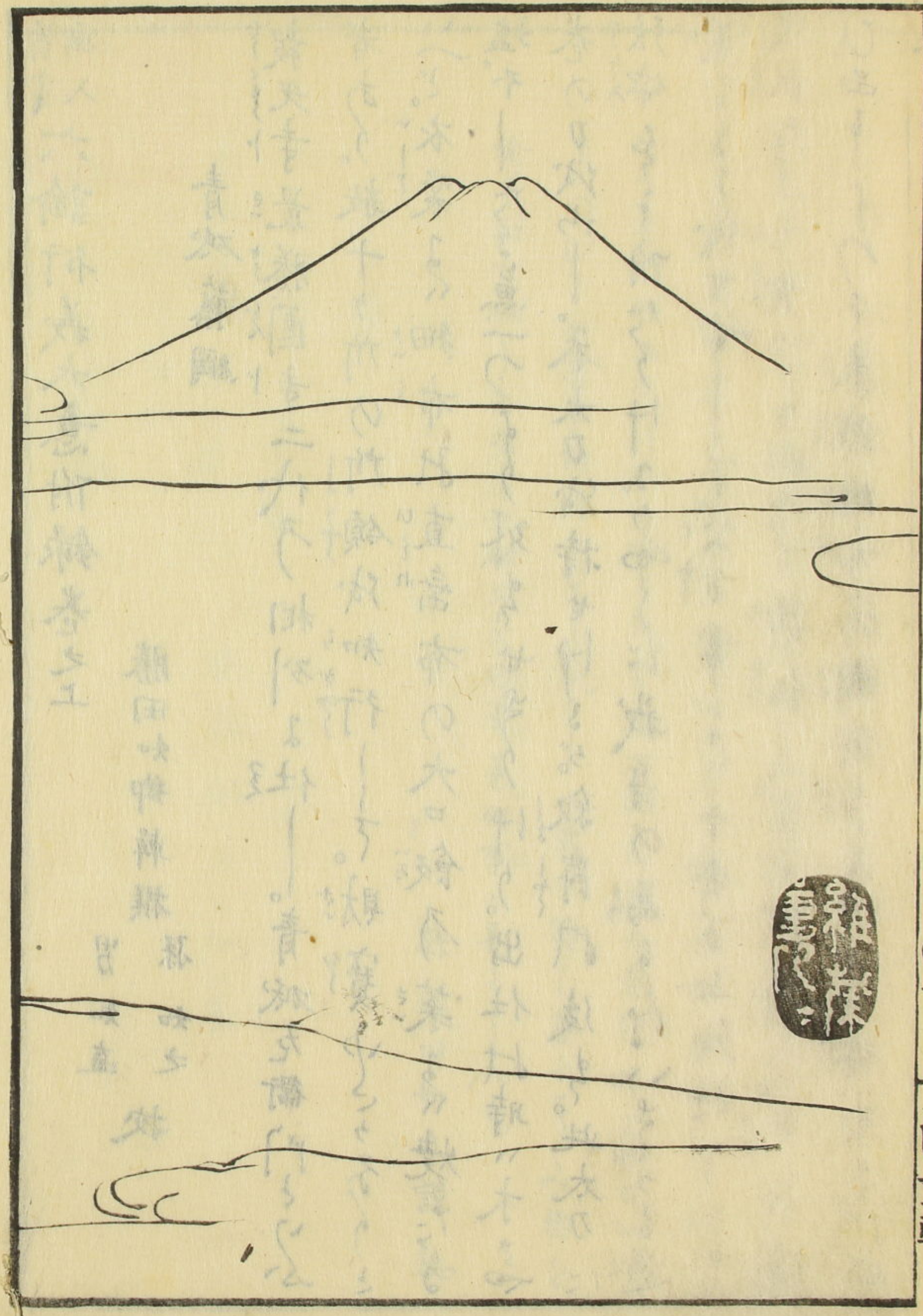
首書
 画入
 六諭行義大意附録卷之上



青砥藤綱

勝田知郷輯撰
 男知直
 孫知之 校

報光寺最勝園寺二代の相列は仕。青砥九衛門といふ
 者あり。数十ヶ所の所領法知行。財寶ゆきありと
 い。衣裳より細布れ直垂布の大口飯。菜より焼たる
 塩。一たる魚一つより外もせきりけり。出仕け時ハ木
 卷の刀法。木太刀持せける。叙爵後。此太刀に
 法体をも附たりける。に我身の為。いさうも過
 差なるとせせず。公方事より千金万玉法。一
 又飢たるを食つ。これたる訴。訟人など。我見たり。分り。隨
 ひ。品より。米。錢。緒布の類。法。えけき。佛。不。の



悲願はむと一に慈悲するどありける。或時徳宗領りは汰出来
く。地下に公文と相模守と訴陣は蕃てあり。理非懸隔——公
文申所道理ありけまど。奉行以人評定衆る徳宗領り
憚る。公文汰まがける。汰青砥九衛門唯一人権門ふまをれず。理の
當る所を具し申立て。終に相模守をどまがける。公文不慮に
得利して所帯に安堵たりける。其恩汰報せんと思ひけん。錢
三百貫俵ふつて。後れ山より青砥九衛門が坪の内へ入たりけ
る。青砥九衛門是を見り大に怒り。汰汰の理非をやつる。相
模との錢思ひ奉る。金く地下の公文を引よあらず。こ
引出物錢取く。工乃御惡名をやとめめれば。相模とのより
ふとすりこび——たふべけき。汰汰不勝なる公文が引出
物錢をどやする——。一錢をも用ず。いふか遠く

田舎まで持送りせりと返——ける。又或時此青砥九衛門夜に
入て出仕——ける。ふつと火うち袋に入て持たる錢錢十文とり
て——滑川へおと——入るける。汰汰火事の物あれば。よ
うとをあらわが——とて行過べかり——が。以外も周章
る。其邊乃町屋へ人を走るか。錢五十文をりつ。續松を十把
買て。則是をど——。終り十文の錢を求め得たりける。
後日に是錢聞る。十文は錢をわとめんと。五十ふ。續松を買
てと——。小利大損なりと笑ひけま。青砥九衛門眉錢聲
る。やれ——と行過る。愚る。世に費るを——す。民を惠
む。ろろある人あり。錢十文。唯今りくめず。滑川の底に
沈る。永く失ぬべ——。某が續松を買せつる五十は錢。商人
は家よりまう。永く失ぬべうす。我損る商人の利

なり。彼と我と小何の差別ある。彼是六十文に錢一をを失ふ。豈天下の利あるや。はまも小き銭一をを失ふ。難く笑ひつる傍人舌に振て感へける。うに私に神慮の通けん。或時相模守鶴が困れ八幡宮に通夜したまひける。曉の夢小衣冠正し老翁枕し立て政道直くして世を久く保さんとたれり。心私る。理小暗かり。青砥左衛門を賞翫す。——と。たし小示さへとにええ。夢忽ち不覺へけり。相模守風し帰り近國の大庄ハケ所。自筆に補任書て。青砥左衛門をたすひける。青砥左衛門補任をを見え大にたす。是も今何事に三万貫。たし大庄たす。候やると問奉りけし。夢想ふ。川てまんふ。くあ。このふありと答ふ。青砥左衛門顔に振て。う。一所も得と。た。い。候。り。

且り御意を通りて款入る候。物に定相なり。喻も。如夢幻泡影。如露亦如電と云ふ金剛經。小を説きて候。も。某が首にけり。夢に御覽せし。供ひ。外あり。と。夢に。行。候。ん。ず。る。報國の忠。す。く。超。涯。の。賞。を。蒙。ん。事。是。は。過。た。る。國。賊。や。候。き。と。則。補。任。を。返。し。せ。け。る。自。餘。の。奉。行。ど。か。や。の。と。代。聞。て。己。を。恥。し。間。ふ。さ。す。れ。賢。才。ハ。な。り。と。う。と。聊。も。理。を。と。ひ。き。賄。賂。ふ。け。る。事。代。せ。ず。是。を。あ。り。て。平。氏。相。列。八。代。ま。る。天。下。を。保。し。の。り。

知卿此頃駿臺雜誌代讀。藤網の傳りたけひ當まる一条代に抄出す。上畧昔或士人乃學代好ける。按察使は命せし。幾内村郡縣代めく。んとせし。首途の。學問の師小贈言代に。其師云此度富士山の下を通

りたまん時。くすや野を見に行きよ。あれやどけ山も。あれや
どのすや野な。てい保ぐす。そて山も上り土下り下
り埤厚あるふてふそ持候も。一上かありて下ふそ。上
大に。て下小さく。忽ち崩つ。此度上れ御為成
たふさ。唯下成厚くすややに御意得候。此外にや
つ事。候はずといひ。とぞん。此答治乱の大機成
含て。其人柄も。い。ゆが。思ひ。今か。一。ふ
御代り御恵。て。め限。と。我人。長。因
り花を。月成りの。ふ。け。つ。に
奢侈。う。ゆ。て。け。心。者。早
く此流弊成。常。節。儉。廉。直。け。道。を。導。り。奢侈
を。と。ん。儉。素。成。け。と。ん。ふ。と。あ。ま。不。一。丈。も。お

のを。獨。り。も。人。に。お。も。う。さ。ん。う。や。め。ら。け。い。か
て。ふ。上。り。か。ふ。作。せ。下。る。も。其。所。り。司。後。り。唯。一
通。り。に。さ。と。一。觸。る。の。う。さ。ん。い。う。が。愚。不。肖。の。さ
と。り。得。多。ふ。至。ん。や。一。町。一。村。も。も。司。後。と。な。ふ。者。い。勿
論。か。祿。る。人。の。上。り。立。者。此。あ。ら。ざ。り。成。立。て。下。り。手。本
目。當。と。な。ん。と。我。身。成。字。り。慎。ん。と。あ。ま。不。一。故。ま
以。身。教。者。從。以。言。教。者。説。い。う。り。さ。く。さ。る。者。身。ふ
行。ひ。て。ま。の。一。ち。と。さ。バ。下。も。の。つ。つ。に。隨。ひ。唯。詞。の
と。成。り。教。ん。と。す。バ。服。從。せ。さ。る。の。う。さ。ん。争。成
生。ず。に。至。る。故。り。法。令。一。く。下。さ。と。い。い。よく。多
事。ふ。ざ。り。て。服。一。が。さ。り。免。角。其。事。行。は。る。と。行。き
さ。ふ。と。い。其。所。の。上。り。立。人。柄。と。あ。る。事。り。聖。人。も。為

政在人其人存則政舉其人亡則政息とい仰あり。又同書
に。板倉周防守。京都の所司たり。一時。或日京乃在家次通
ふ。さ家次れ幼少なり子出たり。周防守の馬上より聞答りて。我不肖
なりといひ。周防守。馬上より聞答りて。我不肖なり。上の御代官
より。さ家次れ幼少なり。我をかく下りて。つふふと
る者。男女老若。我をかく下りて。つふふと。常に家人
なり。我をかく下りて。つふふと。常に家人。是は定りる子細あり。其
家主の名次き。つて。通ふ。其家主をわけて。汝先年。何
を訴詔たる事やあり。今尋る。女も氣つら
ひなる事。小なり。何なり。尋る。女も氣つら

き。始り何うと辞退ける。再三問ふ。此上にかく
さず。かゝる上候。その手。その月。父乃配分の事。付て。
一類の者。何うと。其者無實。其事。申す。候。證人を多く。申出候。御
聴断の上。相
手。勝利。定り候。其次。其。下役
人。命。其年。小當り。薄案。せける。小。女。も。今更
なり。其。上。小。尋。究。是。其。聴。誤
なり。也。殘念。なり。最早。年。久。き。事。あり。今更
なり。其。配分。程。某。償。つ。我。過。ち。謝。す。
自分。金銀。出。其。者。せ。是。ふ。事
なり。周防守。已。威。勢。を。つ。の。お。の。過。失。を。か
く。す。我。常。に。晦。る。處。て。明。を。銜。り。我。常。に

愚小處、知を先たてず。其心公ふて私る。誠あり
かな。明智といふべし。是れ説藤網の言行、同一とふべし。

僧鐵眼

僧鐵眼。諱光。肥後國本願寺末下乃寺に生まる。すくに妻もあり。
其宗徒不徳無才れ人。寺捨より上位より居る事、甘んぜず。
黄檗山一のり木庵禪師より隨ふ。其妻ある人、尋ね登りうど
と。對面せざるがかり。黄檗門前より旅宿より師に出づ。
うがふ。或日果して出づ。強ていさるひり。止事、得ず。
伴ひて故國へ歸り。其郷より入る。後、上途より。又黄檗に至る。
法を嗣後。攝津國難波村瑞龍寺に建立せり。世人今、鐵
眼を以て其寺に稱す。一切經、乃藏板に思ひ立て、勸進せし。
其料金集りあは。天下大に鐵。師あは。件れ金を殘

す施。又前より勸進せしに。数年より。又集りたるが。再び五穀
不熟。餓死多し。此度を此金に施行し、ゆるがせり。と
主徳に至り。第三回より勸進。藏經の印刻成就し。
其經を領つ所の代金。本寺より以下一宗に寺に配る事。今
におもひ同。同宗の錦袋田とふす。此師佛學深く。説法
能辨。俗間を化度する事多し。生涯建立門ふかり。
自の腕力十分なり。吾法嗣を立す。法才寶洲和尚
寺に附屬す。是又他よりかゝるなり。寶洲も佛學は長いて
徳行ありとせ。

和卿云。續崎人傳。比山和尚傳。寛文四年の秋。鐵眼。比山
公慶と會せし時。三師各大願に發せし。比山は是より
四十年経。元禄十七年八月七日。大願成就。め。是ハ

宗門傳法の要。惣一師に印證ふ。近世宗風頹して
法才乏なり。嗣とす祖意ある者。誓て古に復せんと
なり。東叡山公辨法親王。挙より。曹洞家の諸大
刹。台命あり。終り復古に大願あり。公慶上人。東
大寺大佛殿建立に大願あり。貞享帝に勅を奉し。
宝永五年六月二十六日成就す。鐵眼和尚。十八年を経る。
天和元年辛酉。大藏經彫刻あり。黃檗山の藏となる。
三師非常に大願を發せし。各成就せし。げらる。
とふ。いふ。たふ。事ありける。

佐川田昌俊

佐川田昌俊。喜六と稱す。幼くして。越前長尾家の將木。玄齊
が養子となる。いす。弱冠あり。三郡に訟をまひる。

判するに辨議。當に人賢者あり。仰。玄齊和歌。好む。く。ひて。學。後。玄齊。其家絶。了。後。浴。起。慶長五年庚子。大津の驛に戦。或人の手に。屬。先途。鎗。合。股。を。傷。て。浅。周。旋。す。永井右。近。大夫直勝朝臣。喜六が勇名。伐。聞。て。招。て。志。を。券。遇。た。ま。ふ。慶長十九年。難波の役。候。り。當。り。九鬼某の兵。す。む。時。其。間。い。ろ。ろ。あ。は。又。沼。川。に。浅。瀬。い。ろ。ろ。と。仰。せ。け。ば。喜六進。出。て。おの。も。候。は。い。ふ。ま。ん。と。い。ふ。彦。と。め。だ。ま。し。ど。も。聞。ず。芦。原。沼。川。伐。り。て。九鬼の兵。と。言。伐。り。其。浅。深。を。く。計。り。て。か。り。敵。兵。か。る。す。至。る。と。伐。得。と。す。果。て。明日。引。退。く。水。陸。の。算。喜六が。と。ば。の。で。ろ。ろ。か。り。人。皆。奇。と。ん。と。ろ。ろ。矢。の。道。に。

く。孫吳れ書成あり。経済の工をもよく志す。右近大夫乃 嗣信濃守尚政朝臣。す。喜六茂厚く。た。山城れ淀。一時在府の日。封地不熟。諸士飢寒す。其の喜六執事た。皆軍用れ金茂。んと。喜六思惟。是。君。同僚。銀子千貫目茂出。吾一人の意。は。倉茂。返濟の事茂。合配す。のち。度。軍用金。何の。諸士。公。恩茂。思。時。あり。益。今十年茂。各返納。倉庫。の。な。死。賜。孝臣一人の所為。義。思。死。賜。

し。辞。所。其理。茂。彦。同十五年。疾。致仕。家。息俊甫。不。薪村。恩庵。休。境内。黙々寺。心。び。居。禪。山水。あり。意。外。遊。壺。不。二山人。も。茶。小堀宗甫翁茂友。連歌。昌琢法眼。従。書。松花堂に。漢。羅山子。和歌茂好。近衛藤公。中院通村公。木下長嘯子。と。鷗社を。或時淀川の鯉。近衛殿。奉。は。二つ。牛の角。た。御。魚。名。あ。で。二つ。牛。つ。又昌俊若。時。に。

よの山花よりさうけ朝より。あろよか峰の白雲。
是は飛鳥井雅庸卿の物語なり。

後陽成院に尊聴より入る。うきうきさせおひりまけるが。後
寛文に皇后集外歌仙に撰るせたかに入。かどけりて
震翰を深たふとある。連歌よりおひりてに長けり。或
人昌琢より。當時連歌より冠たる。誰と問。昌琢西よりかの
もあり。東に昌俊あり。答へる。永井彦下野
癸未八月三日。病終る。水ん。在城の時也。寛永二十年。

和郷梅より小豪傑清操の人意。外小遊よりめ。風
流をたのむ事多し。いど。皆世をうみ憤り
成抱。事を風流にたく。身を潔くもふれ
も。言行始終の全き。何と云ふ。此佐川田氏のみ。

其任を全くして後。老成風雅の境。養ふといふ。
凡そ風流をたのむといふ。其の豪傑にあはれ。
其趣を得べからず。元政上人。風流も貧をまへよく修
して後。ものをづら。真に得べし。中よ。茶
事。成る風流の魁。上王侯大人より。下早殿の匹夫と
いふ。是をたのむ。遊ぶ者多し。然し。各名聞を専
ら。驕奢に走り。却る風流をう。のふ。夫。點茶の道。
珠光小根より。利休小大成。東山公より。豊大閣。小の
盛。成き。む。いと。各其好む所。深意。今。其
實を。人。女。唯其用の。を。専ら。て。い。つ
り。珍品名物の。器物。大金。費。人。耳。目。成。お
ろ。か。身。分。限。を。つ。て。驕奢。小。走。り。終。小

家産破多に至る。是より徒に常に親戚一族の歎き
をも顧りず。私欲よりまうせ。高價の名器よつのみ。
美味珍膳を不あり。獨り風流とたひかふ。却て不
風流の至極なり。されば茶道を學者。驕奢は學ぶと
たひか者をけり。茶道はふくむ事甚だし。ふ至
る。え來茶道。隱逸幽柄の閑人。所行か。今
至る其残る處。高貴とゞを。早賤と席次ある。味
淡共か。親しみを深くす。是其本隱逸遁世
の所業。質素は主とまればあり。客を請すは
飲食各節度あり。儉易はたつ。且其礼を正く
す。さてに貝原先生も。三礼の一。學ぶ。事とい
今や茶味をたのむ人。目の見足れ。踏所。あつて雅

趣なり。さへいね。とゞを。造作の結構。つともお
り。其祖も。東山公。唯驕奢の魁。た
か。全くなつ。此頃天下。太平に歸
。天下をのつ。驕奢。走る。公。此道
。號。隱逸。閑。靜。質素を。其驕奢
。弊。た。もの。又豊太閣。此役を
好。古器。た。た。ふ。其意。味
深。是を如何。録倉の右大將家。感狀とふ
事。し。用。軍士の功。を賞。し。勅
。た。東山公。頃。至。人情。利を。つ
。多。浮靡。走。感狀の。い。の甲
。し。励。を。人。刀。効。あ。和。海。の

少頃、ひ憂哉見たり。こころに、さりと平生の應答、さう
に主意ともふ、拭をあらう。さう酒は酔茶はう。うきたるが、
た脅撃、主とす。ふり、れとさう。経済、長ず。うも是を
色、あつち。唯書、読人、小逢、戯をい。今、れ學者、
腹中、小万巻の書を、おさむ。い。是を身、小求。事、に、行
ふ。い。う。も。物、一。で、魚、小人、を見下。其身、却、言
行、愚人、小た。い。詩、文、博識、専、と。せ、其、名
高。耳目、然、た。ろ。ろ。す。唯、是、名、利、を、求、ひ。の。既、小、聖、人、を
無、学、ろ。ろ。其、身、れ、行、ひ、正。道、小、か。る。ひ。も。學、ひ、た
ろ。と、同、事、な。ろ。と、あ、せ。い。か。論、語、讀、の、論
語、ろ。ろ。い。か、能、ろ。ろ。三、皇、五、帝、ろ。以、來、せ、ろ、
聖、賢、言、を、立、教、を、た、も。ろ。ろ。皆、身、小、行、ひ、事、小、施、た、ろ、

ね。學、問、ろ、身、成、た、さ。め。天、下、國、家、を、治、ろ、ろ、外、小、何、の、用、ろ、あ
ん。是、を、捨、ろ。記、誦、詩、章、を、事、ろ。一、生、成、た、ろ、ろ。琴、瑟、書
画、ろ、藝、成、ろ、ろ、小、異、ろ、ろ、事、ろ。だ。其、名、成、四、海、小、高、ろ、な、す
を。唯、自、己、を、た、の。み。世、ろ、玩、び、と、な、ろ、ろ、小、何、の、益、ろ、あ、ん。
能、書、成、讀、ろ。頗、ろ、義、理、を、達、せ、ろ。文、學、見、識、古、人、は、及、ず、と。其
學、問、乃、實、地、小、至、ろ。と。い。ろ。翁、常、に、藤、樹、熊、澤、の、二、先、生、の、學
風、を、あ、ひ。又、草、山、要、路、草、山、集、等、れ、書、を、讀、ろ。後、元、政、上、人、を
深、く、尊、信、ろ。ろ。

知、卿、按、ろ、小、藤、樹、先、生、を。ろ、朱、學、成、尊、信。後、陽、明、
歸。生涯、の、周、旋、温、厚、篤、實、ろ。い。ろ。い。ろ、と、利、名、を
求、ろ、事、ろ。實、地、日、用、れ、學、成、勤、ろ。ろ。既、小、近、江、聖
人、乃、美、稱、ろ。熊、澤、先、生、。其、門、小、出、ろ、と。其、學、子

別は一家成る。時所位の三氏要と。活潑自在小實地
有用の學成主と。あに經濟の道は長ず。其清操豪
傑。國初以來の一人とふ。深草の元政上人の文式は通
徹。智量衆小勝。道世。後道德一世小卓絶す。師
熊澤先生と友と。是同氣あひひる所。先生
備前氏辭して後京都小寓居。名を蕃山と改。或
或日伶人と伴ひ草山小来。そめて上人小あま。たま
ひぬ。是よりおろく小来。法華經の訓讀はあひ
梵語の心得が所。又源氏物語をもと上人小聞たま
ひ。先生常に佛法責め
みたま。上人小對して。強て破せし事もあ。當
當世の僧を教尊に見せし。此人は何とふ者ぞ。

先生の原語據。此時の
著作よりあ。

仰てん孔子小當世の儒者成見せし。是は何者ぞと仰
てんと語ら。多先生吉野山。庵成むむ。隱
隠せられたりける頃上人へ消息あり。あ。

此春より一の山れ山人とむ。あ。花の色香
成とありける。此人の交接あ。先生習ら。
漢儒の訓詁宋儒の理学王子の心法皆聖學の全体あり。
一城と國。初學はあ。朱註よりあ。文義を辨へ
それ。經文なり。成讀は後。經を以て經を解。聖人
直小對。奉る。如くの意生む。ものあり。其學術
の全体ハ藤樹先生の學成擴充せし。所あり。送
爰。平安小野氏小藏。藤樹先生乃熊澤先生。一
ら。一章の真蹟成見。其實學篤行の貴成感

書寫——子孫の教誡——。或代あゝ横寫——て同
志小示——永々其德成仰ぐ——。

原謹以邇言餞

熊沢子之行

不佞虽非温故知新者三三同志謬推以為句讀之師不得已
而竊依惟數學半念終始典于學之法言而常恐或有誤後
學若蹈虎尾涉于春冰熊澤氏亦有此招今將趣豫方臨別
告曰夫師範之寬立本於隱微而生道於講論或與其進也不
與其退也與其繁也不保其往也而不為已甚或語上或不語上
或舉一隅以待其反或憤排而后啓發之或進之或退之或如

時雨化之或成德或達財或答問焉敷之如灌溉萌芽拱把
合抱各隨其分答之如鐘聲音之大小必隨其和育之如水
潤物遲速由物而不至於浹洽不已約之在本于無言之宗而
不失人亦不失言格物致知教學相長以與致中和天地位焉萬
物育焉而已矣原有志未能得其万一夙夜念茲在茲子亦勉
旃欽哉

原謹以邇言餞

熊澤子之行

不佞虽非温故知新者三三同志謬推以為句讀之

師不得已而竊依惟數學半念終始典于學之法言
而常恐或有誤後學若蹈虎尾涉于春冰熊澤氏亦
有此招今將趣豫方臨別告曰夫師範之寬立本於
隱微而生道於講論或與其進也不與其退也與索
也不保其往也而不爲已甚或語上或不語上或舉
一隅以待其反或憤悱而后啓發之或進之或退之
或如時雨化之或成德或達財或答問焉敷之如灌
漑萌芽拱把合抱各隨其分答之如鐘聲音之大小

必隨其扣育之如水潤物遲速由物而不至於浹洽
不已約之在本于無言之宗而不失人亦不失言格
物致知教學相長以與致中和天地位焉万物育焉
而已矣原有志未能得其万一夙夜念茲在茲子亦
勉旃欽哉

先生中江氏諱原字惟命通稱与右衛門江列高島郡小川邑の人
也幼より祖父に嗣たりて豫列大洲彦江守に仕ふ後母を失て
故郷にありて錢をひき歸省し母を侍人とす老母波瀾致志の人
遠く行くと欲かるむ故に空しく歸りて致仕を乞ふと再三

後其材德^{たけ}成^{なり}おしん^{おしん}ふ^ふす^す二十七歳の冬^{ふゆ}逃^{のが}さ^さ川^{がわ}へ^へ小川^{こがわ}邑^{むら}
み^み歸^{かへ}り^り老母^{らうぼ}を^を孝養^{こうよう}し^し經^{けい}成^{なり}講^{こう}し^し弟子^{でし}を^を教^{けつ}育^{いく}し^し慶安^{けいあん}元
八月^{はつがつ}二十^{にじゅう}日^{にち}四十一^{しゅういち}歳^{さい}に^に病^{やま}て^て卒^すす^す今^{いま}小^こ至^し百^{ひゃく}九^{じゅう}十^{しゅう}余^ご年^{ねん}に
お^おふ^ふと^とい^いふ^ふを^を德^{とく}澤^{さく}と^とい^いふ^ふ輝^{かが}き^き天^{てん}下^かの^の人^{ひと}尊^{そん}信^{しん}せ^せる^る所^{ところ}
況^{いは}ん^ん其^{その}居^き邑^{むら}近^{きん}郷^{きやう}と^とい^いふ^ふ近^{きん}来^{きん}膳^{ぜん}所^{じよ}後^ご其^{その}封^{ほう}内^{ない}に^に碑^ひを^を造^{つく}る^る
あり^{あり}て^て厚^{こう}く^く其^{その}德^{とく}成^{なり}稱^{しょう}し^した^たふ^ふ小^こ川^{がわ}邑^{むら}上^{かみ}下^{した}二^{ふた}ヶ^が村^{むら}に^にあり^{あり}て^て
其^{その}學^{がく}成^{なり}た^たふ^ふ農^{のう}隙^きあり^{あり}時^{とき}に^に夜^やに^に書^{かき}成^{なり}懷^{くわい}し^して^て大^{だい}溝^{こう}後^ご
れ^れ儒^{にう}官^{くわん}の^の家^けに^に至^{いた}る^る學^{がく}小^こ行^{ぎやう}路^ろ一^{いち}里^りに^に餘^{あま}り^りの^の領^{りやう}地^ち也^{なり}又^{また}或^{ある}は^は
乃^{すなは}ち^ち家^け士^し馬^ば家^けに^にあり^{あり}て^て此^{この}地^ちを^を通^{とほ}り^りに^に思^{おも}ひ^ひて^て事^{こと}あり^{あり}て^て傍^{わう}
に^に耕^{たが}す^す農^{のう}丈^{ぢやう}成^{なり}か^かり^りて^て先^{せん}生^{せい}の^の墓^ぼ地^ちを^をと^と農^{のう}丈^{ぢやう}其^{その}非^ひ礼^{れい}を^を笑^{わら}て^て
教^{けつ}と^と彼^か士^しお^おも^もう^うな^なる^る下^{した}馬^ばに^にて^て礼^{れい}成^{なり}り^りて^て農^{のう}丈^{ぢやう}と^とい^いふ^ふ
又^{また}謹^{きん}む^む各^{かく}て^て曰^{いは}唯^{ただ}今^{いま}御^ご案^{あん}内^{ない}申^{まを}さん^{さん}は^は志^しす^す是^{こゝ}に^に待^{まち}せ^せと^と

い^いて^て走^{そう}り^りぬ^ぬま^まる^るて^てあ^あり^りて^て服^{ふく}成^{なり}あ^あり^りて^て袴^{はかま}成^{なり}着^きて^て未^{まだ}だ^だ
先^{せん}き^き路^ろの^の不^ふと^と二十^{にじゅう}町^{ちやう}を^をか^かり^りて^てあ^あん^んが^が聊^{りやう}く^く其^{その}勞^{らう}成^{なり}い^いす^すは^は
ん^んの^の墓^ぼ前^{ぜん}に^に連^{つぎ}行^{ぎやう}け^けて^て其^{その}教^{けつ}化^かの^の至^{いた}る^る此^{この}一^{いつ}事^じを^をあ^あり^りて^て
て^てあ^あり^りて^て唯^{ただ}居^き村^{むら}の^の近^{きん}郷^{きやう}に^にあり^{あり}て^て此^{この}一^{いつ}事^じを^をあ^あり^りて^て
行^{ぎやう}の^の微^き誠^{じやう}に^に仰^{おほ}む^む貴^きむ^むに^に

翁^{おきな}常^{じやう}に^に無^な為^ゐ清^{せい}淨^{じやう}成^{なり}あ^あり^りて^てす^すも^もと^と礼^{れい}を^を守^{まも}る^る事^{こと}甚^しく^くお^おび^び
り^りなり^{なり}且^{かつ}國^{こく}初^{しよ}以^い来^{らい}り^り記^き録^{ろく}成^{なり}好^{こう}く^く普^ふく^く古^こ今^{こん}の^の事^じ跡^{せき}は^は通^{とほ}す^すと^と
ま^まい^い東^{とう}照^{しやう}神^{しん}君^{くん}御^ご大^{だい}業^{ぎやう}の^の後^ご慶^{けい}長^{ちやう}年^{ねん}間^{かん}經^{けい}書^{しよ}成^{なり}て^て一^{いつ}冊^{さく}に^にあり^{あり}て^て負^お
觀^{くわん}政^{せい}要^{やう}武^ぶ經^{けい}七^{しち}書^{しよ}等^{とう}を^を活^{くわつ}字^じ板^{ばん}と^とな^なさ^さに^にめ^めた^たす^すに^に繼^{つぎ}て^て元^{げん}祿^{ろく}年^{ねん}間^{かん}
四^し書^{しよ}新^{しん}註^{しゆ}及^{かつ}い^い享^{きやう}保^ぽの^の六^{りく}諭^よ衍^{えん}義^ぎ等^{とう}成^{なり}て^て一^{いつ}冊^{さく}に^にあり^{あり}て^て追^{おひ}て^て官^{くわん}刺^しの^の御^ご書^{しよ}
成^{なり}難^{なん}有^ある^るに^に此^{この}書^{しよ}類^{るい}を^を秘^ひ藏^{ざう}し^して^て一^{いつ}覽^{らん}の^の時^{とき}に^にか^かり^りて^てす^す礼^{れい}
服^{ふく}を^をて^ての^の一^{いつ}慎^{しん}に^に拜^{はい}讀^{どく}る^るに^に其^{その}外^{ぐわい}六^{りく}國^{こく}史^し沿革^{げんぎやう}論^{ろん}藩^{はん}翰^{くわん}譜^ふ

土小傳る如き。實に永世の盛事とふべし。又今南紀北畠氏（鐘）
 房傳へ藏する。論語の印板あり。（何晏集解）奥小正平二年。元
 海浦道祐居士再（き）以（き）剞劂氏命（あ）梓（あ）彫（あ）あり。此印
 本何きの項。漢土小渡（あ）。讀書敏（あ）救（あ）記（あ）。其書（あ）唐（あ）人
 の如し。正平（あ）年号。日本（あ）聖代（あ）見（あ）す。是朝鮮（あ）。日本（あ）の威
 張あり。年号を用ひし事あり。北（あ）。此板朝鮮（あ）。
 とあり。正平ハ南朝の年号。（正平二年ハ南朝後村上帝也。北朝ハ貞和三年。光明天帝なり。）
 事張あり。水（あ）也。五百年前の梓。今日現然（あ）。事。まゝ
 に貴む。又正平九年印刻の論語正文の梓も。今な
 張光海（あ）あり。云。九（あ）印板を（あ）。書籍（あ）盛（あ）大（あ）を（あ）
 水（あ）義公也。文會雜記（あ）曰。大日本史二百五十卷を（あ）
 らせた。御物入あり。八万石除置（あ）。た（あ）なり。さて

儒者張諸方（あ）。名山（あ）藏（あ）を（あ）。京（あ）を（あ）。数人（あ）つ（あ）
 置。大切の書を（あ）。た（あ）也。又礼儀類典（あ）五百十五卷。是
 公方様へ献上。又。靈元帝御覽（あ）あり。御賞美あり。
 中（あ）な（あ）事。水（あ）書（あ）。大（あ）御賞美あり。
 と言。又舜水文集を始。太平記参考。同保元物語。同平治物
 語。同盛衰記等。其外数百卷上梓あり。其中（あ）み（あ）に
 御心張（あ）。草露貫珠二十三卷也。是得（あ）古法
 帖の類を撰（あ）。其文字（あ）切（あ）。草稿（あ）張（あ）。今ハ漢土（あ）
 た（あ）。彫刻あり。古法帖あり。今ハ漢土（あ）
 絶た（あ）。稀（あ）。集（あ）。夫を（あ）切
 張（あ）。實ハ大度の至り也。水（あ）此書（あ）の如き。正
 結構あり。和漢古今（あ）。我本邦（あ）の至寶

とふ。万葉集代記古今和歌集餘材枚多。難浪る
契沖へ。万葉集の註を命めいに。契沖万葉の註解を
教多の黄金成たまり。に。契沖万葉の註解を
一。草稿を奉り。時。いま余財の多く侍。又古今
集代註。せん。程。稿を脱。て奉り。
少。直。餘材枚。名付たふ。誠。文化の盛んな
る。國初以来。公の御力半。小至。一。や。かく文書の事
小。聊。御。ひ。金銀を費。た。西山御
隱殿。茅の屋根。堀込柱。を。を。御住居
より。西山遺事。小詳。なり。誠。あり。を。貴
御事。申。た。れ。あり。事。も。なり。
人翁の年成。く。い。ろ。を。三十余歳。く。あ。あ。に。不

審け。ま。お。く。問。本。卦。成。く。返。せ。く。あり。と。答。へ。る。
に。終身。壯健。ふ。九十五歳。まで。長壽。あり。け。翁。常に。隱德
を。施。せ。る。人。のため。ふ。事。い。う。を。物。を。た。ひ。み。り
く。善。事。多。く。中。に。或。山。寺。の。井。水。を。く。復。冬。に。遠
より。汲。来。る。多。年。是。ふ。苦。め。一。年。何。事。も。此。寺。に。勸。化。の。事。あり
る。翁。ふ。た。の。来。て。め。翁。其。勸。化。の。み。に。断。て。我。外。小。寄。進
に。り。多。く。金。銀。を。出。し。所。を。見。定。り。井。を。わ。せ。け。る。小。神。仏
乃。冥。應。に。さ。か。る。ひ。け。ん。清。水。涌。出。三。伏。の。日。と。絶。了。事
る。多。年。の。苦。も。り。と。く。な。り。住。僧。い。ろ。なり。且。家
れ。者。より。其。う。ら。び。大。う。な。り。す。翁。是。を。不。朽。の。勸。化。あり。と
い。ひ。獨。り。居。り。又。其。頃。翁。の。住。居。に。近。き。往。還。は。土。橋
あり。霖。雨。剛。雨。は。か。る。ず。崩。れ。る。人。に。往。来。の。人。を。是。が。ため。小

筑波石記

日必大徳乃金出り之師貞徳名を記す
 少くも其を記をききしをそとてに
 城より記の跡をみりて其を記をきく
 なるなりとて其をききしをそとてに
 日必大徳乃金出り之師貞徳名を記す
 少くも其を記をききしをそとてに
 城より記の跡をみりて其を記をきく
 なるなりとて其をききしをそとてに

特斎宮



筑波石正面

高き所三寸

根三寸前後三寸



くまに部諸の連なりを記す
 貞徳乃金出り之師貞徳名を記す
 少くも其を記をききしをそとてに
 城より記の跡をみりて其を記をきく
 なるなりとて其をききしをそとてに

貞徳

月と日とを記す

紙 中 堅九寸八分横二尺四分

在北村季吟翁筆に在商量軒主人之手書編寫
 日必大徳乃金出り之師貞徳名を記す

海東居士



たの—まん同—といふぞ。いとと貴きいふさ—な
き。彼と我とを隔る。私をなむとまうろといふ色—
と。深く感ずるのりま。いふ其石の形容はうつ—
出。其文をも志—付て同志は志めす。

翁或時其身れ事ありす。きりかき事ありて。訴訟おな
ぬとつりけふ。其相手とする者数人ありけるふ。中よりい
ふと困窮の人ありて。此事ふり。渡世もなりか。いふ苦—み
はすいしを聞ひそのふ其家内の容子を探や。其数をか
かん。飯米は本より日用雜費のきりめは考へ人あをす縁を
かりて送りける。いふ—きし其事を志し。恵をうけ—相
手の者と。深くか—けり事ふたし。志のびくふれに
来りけき。翁此方よりの送り物ふあらず。おもひもすめ

事ありといひてさふ其色も。志の切ある又たふし
中古甲列武田家の軍強。合戦いつと勝のきあり。隣國の
大将衆いひ合せ。甲列へ塩たらしむを禁止せられぬ。甲列は
海に遠き國なり。近國よりれ運送た。上下ともに苦—
みぬ。越後あり上杉謙信。かかこい敵味方。倚角の勢
ひを張居る。此—法聞た。勝負は互ひれ鋒
先あり。かふ拙き事—て。眾ろさ下民を苦—む。隣
國の大将衆を浅す。けさあり。此方より送す。いふ
越後より甲列へ塩を運送あり。いふふとを—かん。敵
物の道理はき。義をす。いふと。唯義をたつ
の—ありす。仁は道はき。得はき。いふなり。

知郷按ふ。仁義は天の道なり。たふし學問ありと

わろ誠小道はまゝ。聖人ろ御意はかのふべ。夫は付
たもい出せし事。何とていふ。記つけぬ。或人のかゝり。い
近き頃。塩醬油は渡世せし者。とかく小運あり。い
段く。貧窮し。借銀つたり。終り。身上破滅はに
し。ひぬ。然れども。生質律義の人ありけき。人。と不
使ふ。おもひ。色く。と世話する人。と出来。まゝ。あつた。め
了。是。ま。と。取引。する。た。る。人。と。頼。む。を。い。つ。以前
に。渡。世。は。し。め。け。る。不。次第。は。然。昌。る。年。経。て。以
前。は。増。り。た。る。身。上。と。い。は。れ。ぬ。従。来。篤。實。の。志。あ。り。い
先。年。も。ん。と。い。ろ。ろ。く。損。毛。は。か。げ。ろ。人。と。返。金。を
し。其。恩。を。報。ト。け。る。中。小。金。五。六。十。兩。借。たり。人
身上破滅。る。と。其。行。衛。と。い。ま。は。さ。む。く。と。い。ろ

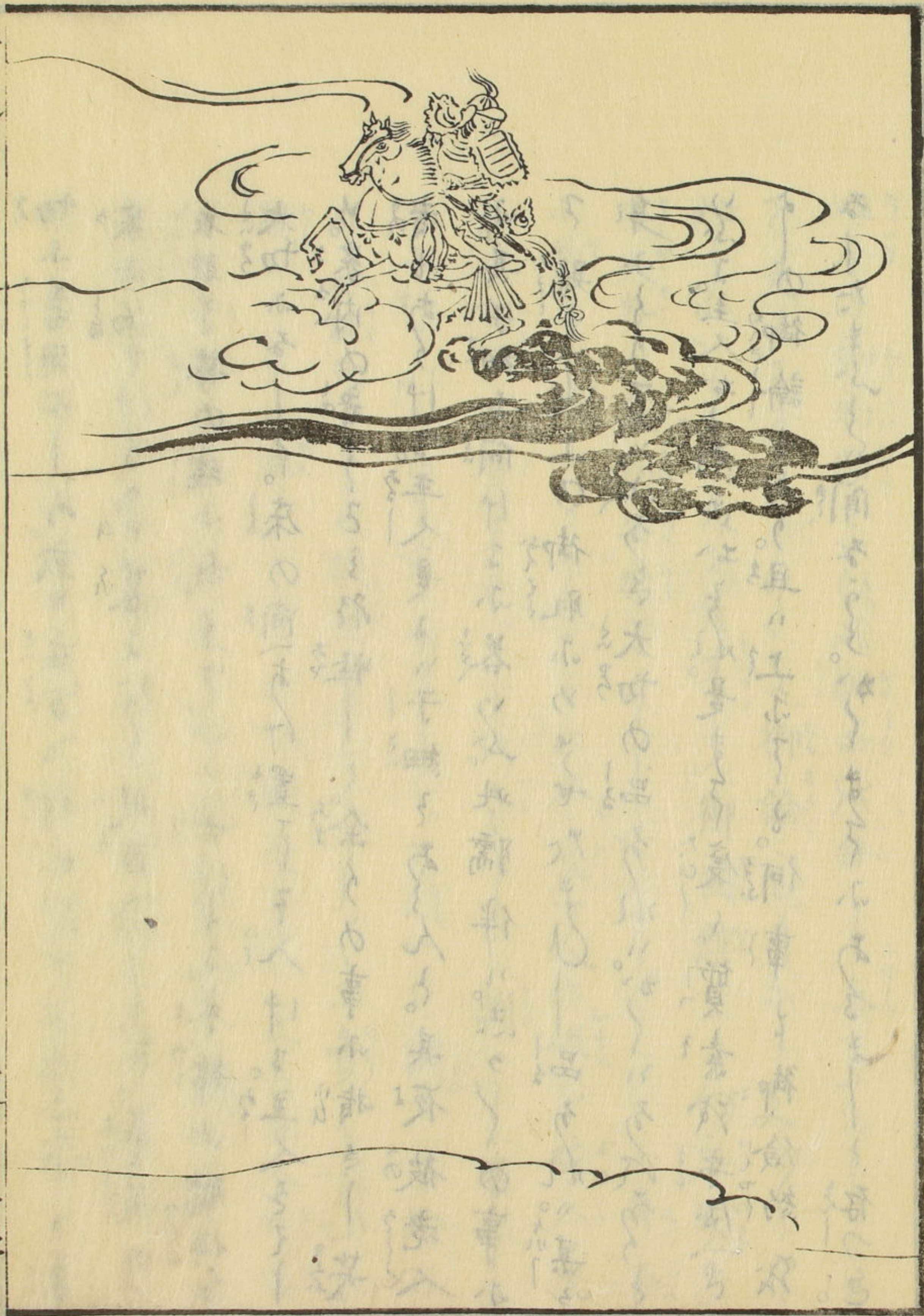
成。る。と。い。ろ。糸。一。が。や。ろ。其。人。の。一。子。は。た。つ。糸。逢。け。き。と
深。く。し。ろ。び。右。に。金。子。を。返。済。を。さ。ん。と。い。ひ。け。き。其。人。ろ。つ
その外。お。ろ。ろ。ふ。其。一。子。ろ。し。と。ろ。ろ。今。少。ろ。人。不。雇。き。其
日。く。れ。働。き。成。す。ろ。か。ろ。ろ。ろ。ろ。世。渡。を。な。せ。い。親。の。頃
より。ろ。帳。面。と。い。ふ。も。ろ。ろ。又。口。つ。ろ。ろ。と。聞。た。ろ。事。も。ろ。ろ。さ
ふ。成。今。何。ゆ。あ。り。ろ。其。金。を。受。ろ。ろ。と。い。ふ。ろ。さ。ろ。ろ。に
聞。入。ろ。ろ。返。さん。と。い。ふ。人。だ。ろ。ろ。其。親。ろ。ろ。借。ろ。ろ。ろ。れ
い。是。非。小。受。ろ。ろ。と。い。ふ。ろ。段。く。い。ひ。つ。の。ろ。終。り。其。事。を。訴
訴。ふ。に。し。ひ。ぬ。官。小。と。い。ふ。と。御。諭。あ。つ。ろ。ろ。と。互。ろ
あ。ろ。ろ。解。ろ。ろ。と。い。ふ。是。等。の。人。と。い。ふ。翁。の。常。ろ。ろ。め。ろ。ろ。ろ。
以。義。制。事。以。礼。制。心。と。い。ふ。お。ま。か。ろ。ひ。自。然。と。道。ろ。ろ。と
合。ふ。ろ。の。と。い。ふ。き。也。

一幸翁他郷小行き一幸あり一に留主小石仕の者同志の友と
計て金二百兩不しの利園成得一六とあり。翁歸りて此事を聞
たりや道理ありす一と財を得るがあらず災減す候けれ本
眼前の小利小迷ひ。子孫の患をひくはつとを慎むべ一と。其金
それく小返させ一と。又或時一郷の大事成。其所の里長の人
翁ふかりに大事ありといふと。事あるん小永世不朽其
所の盛事ありけしハ翁ありと受かひ。と由く一とあり成
るけしハ大うふあめ大事あり。其費用おびた一かり
に頼一人。何程の大金ありと。いさういさう計
たすれ一と事ありハ翁一も一にかりて。終る其
成就る一ハ。頼一人とを深くし。備一翁のち
うと。あつ一辞をもて謝一ゆき。其費用の事ハ何の

辞もあ。月次越てを。いさうとつくのえんもせ。其終る
過ぬ。元来翁よりハの事ハありひうれた。た事ハ
あ。縁ど。始いり不とけ費用ありと。いさうと厭
と。むとにんあ。事ありて後ハ。其事ハ口も出さず。
余の事ハ翁もあ。彼人ふむひ。其費用を求
ふ。あ。縁ど。始終のさ由。余ハ浅ま一と計ひ。道理
背のう。成いりけしハ。彼人とをたれ。ち。日ありす
金千両成あり一来。深一其罪成謝一ハ。め
に翁其金を受ていりけしハ。か。浅す一と人より。い
財を受て。何より不信あり。其道理を志めせ一の。今さ
ういり。此金成受おさめんと。如何ふと受らさず。彼
人とも。ふいひけしハ。公羽さ。受たさず。元来怒

事いさうとなくも。唯其不信成り。終に其財を受さ
せけふ。世間が事なり。大事乃間ある。たもひけ外のさうり
出来て破きけり。此翁のいさう若かり。頃七月のそめ。
空中。緋威乃鎧着。あ太刀成帯。白き馬に乗たり。怪し
人黒雲の中より。上る。白雲中へ入る。一。眼前小見
事あり。とぞ。是を摩利支天あり。又翁常云。人々
身成立んと思ふ。苦し。と思ふ事成務めなり。苦し
とあり。家立入。それにて身立りのあり。面白。とあり
事成あり。面白。と思ふ家立入。夫にて身立ぶと云り。誠
浅近。よく耳入易く。實に稀世の名言あり。或人の歌。行末
願ふ人のため。事の数。つて。まづ。此翁乃一生の所業善事。挙つて。が
實小貴む。事どもあり。

知郷云。翁の事蹟。若かり。頃如来先生の家。小く聞
たり。也。翁と故十年成経。けき。り。事の
多けき。耳底小残。あり。成。た。ひ。ろ。ま。つ
成。志。一。つけぬ。因。云。如来先生の。上杉鷹山侯の。御仁
徳を記。され。野。又其御家。記。され。物を。を
拜讀。せ。に。御一生の御言行。ふ。成。仰。け。い。よ
高。誠。あり。御仁徳。か。ざり。な。中。ふ。た。り
ふ。と。い。御近臣。の中に。孝心。深。人。あり。ける。小。或日
厚く御賞詞。あり。是。成。入。御。御。下
賜。り。ぬ。彼人身。小。あり。たる。御惠。成。い。ろ。き
退。り。老親。小。志。の。成。告。御恩賜の品。を。出。せ
に。老人。唯。涙。ま。り。君恩。の。け。ける。成。拜。大



切小着用る。或日在方へ行かば、よりき豪
家小泊りけり。日暮なり風呂へいり。着用の
衣服を椽の端小枝まで、いと古びる。木綿の脇伴を
大切する。床の間へけ置き、入ける。主人をそ
り。家内の者こそ、これ怪し。余りの事小指さし笑
者もありける。主人是より子細くあんと。其夜彼老人
小。其子細を問ける。小答ふ。此脇伴は、志くくの事小
賜り。上の御肌小めさせたまひ。品あり。其
身小くして、上る。大切の品あり。が、いり。あつと
ふ。主人おろし。是より度。質素。守。一
りの御諭もあり。且、上る。何事も御儉約。張
る。たまふ。聞る。が、さ。小ある。と存つ。

唯今の御物語といひ。此御品。張。奉。て。さ。め
て。是。より。あり。か。な。御諭。身小。み。や
に。い。り。ぬ。夫。は。付。某。御國恩。より。家
富。大勢。家内。安樂。く。さ。う。う。く。と。身
小。應。せ。ぬ。驕。小。う。い。に。今。度。一。人。の。娘。を。嫁。入。ん
と。衣服。調。度。す。さ。う。張。さ。し。調。へ。事。す。ふ
と。小。に。入。た。事。あり。さ。う。さ。う。か。く。調。へ。結。布
の。衣服。さ。し。め。調。度。す。さ。う。く。小。賣。さ。し。衣
服。さ。る。木。綿。小。さ。の。調。度。す。さ。う。其。身。分。相。應
なる。品。さ。る。一。ける。是。より。一。國。小。質。素。の。風。さ。る。れ
る。驕。奢。れ。弊。風。除。さ。ける。又。常。志。の。び。て。村。里。を
見。ゆ。さ。た。ま。ひ。ける。或。日。あ。り。け。る。賤。り。屋。小。ち

いせたまひ。老婆は機あり居たる様小腰け。さるくの御物語もあり。もどろ唯あめ御有る由に老婆とそれと知るう。りきとさるはなすは。もをわ。ふせ。御供ふ。ず。一人の誤。糸。張。も。た。り。け。き。い。老婆。け。き。を。と。ん。此。木。綿。殿。様。へ。あ。り。て。奉。へ。ん。と。朝。夕。や。ろ。張。尽。清。め。き。を。え。あ。大。切。ふ。あ。す。を。け。か。り。た。ま。ふ。と。安。か。く。孫。と。大。に。怒。り。け。き。い。侯。ふ。と。不。思。議。い。た。と。ひ。た。ま。ひ。し。う。其。家。を。立。出。さ。せ。た。ま。ひ。め。日。を。一。あ。一人の老婆。一。及。の。木。綿。を。持。御。城。小。来。り。此。木。綿。殿。様。へ。上。り。ふ。へ。ん。と。織。た。ま。ひ。先。日。御。約。束。も。い。う。せ。一。ま。き。い。御。上。下。さ。れ。も。ふ。ふ。人。へ。お。も。ろ。さ。あ。や。ふ。さ。う。く。と。い。ど。う。に。聞。入。り。け。き。い。詮。方。を。く。其。よ

一。成。も。ふ。上。あ。き。い。も。に。御。庭。へ。ま。う。す。べ。さ。う。る。い。い。御。近。臣。の。人。へ。も。不。思。議。い。た。ま。ひ。る。う。め。一。つ。を。け。き。い。不。侯。も。く。ふ。立。出。さ。せ。た。ま。ひ。あ。つ。其。志。を。御。感。あ。川。へ。御。引。出。物。下。さ。れ。い。と。念。ひ。候。小。御。物。語。あ。り。け。き。い。御。仁。德。の。至。き。う。ま。う。に。難。有。御。事。民。の。父。母。た。る。御。德。も。り。ふ。す。一。ふ。人。ふ。君。た。る。御。身。天。祿。天。位。の。厚。く。貴。き。處。小。生。き。さ。せ。た。ま。ひ。を。の。づ。下。の。情。ふ。く。一。そ。其。德。の。い。う。ま。ふ。事。世。へ。通。弊。也。さ。れ。い。往。昔。より。和。漢。古。今。の。明。君。言。路。は。い。う。さ。上。下。の。情。を。通。一。閑。塞。も。あ。事。な。う。一。む。成。も。一。と。な。一。た。ま。ひ。夫。言。路。を。む。く。人。君。く。諫。を。い。う。に。あ。り。臣。と。一。そ。君。の。非。を。あ。げ。て。諫。成

奉る尋常の事あり。す。も。い。さ。う。と。上。小。怒。り。色。あ
る。い。誰。う。諫。り。成。奉。る。者。何。ん。や。諫。成。い。う。れ。臣。あ。さ。と
に。君。德。日。々。く。下。情。を。小。塞。く。所。を。奸。佞。の。徒。其
隙。を。乘。り。終。小。國。家。の。乱。る。君。同。く。成。好。す。諫。を
奉。る。の。臣。成。愛。し。た。す。小。時。に。言。路。を。な。さ。し。し。君。德。日
に。明。り。く。下。其。澤。を。浴。し。万。民。赤。子。の。母。成。さ。る。
ふ。り。如。く。な。る。べ。し。三。皇。五。帝。成。さ。る。和。漢。の。聖。皇
賢。君。い。つ。き。言。路。を。な。さ。し。諫。を。な。さ。し。急。あ。る
さ。る。い。な。し。是。を。た。と。い。水。道。の。と。い。水。源。の。り。次。を
小。流。く。大。河。小。至。く。小。塵。成。其。際。小。積。り。塞。る。時。を。
忽。ち。大。水。溢。る。人。民。を。溺。死。さ。さ。る。其。際。塞。る
と。る。く。水。流。下。滯。ふ。と。る。と。い。人。君。常。小。私

欲。の。心。を。さ。り。人。小。君。た。ふ。れ。本。を。思。察。し。賢。良。の。臣。成。撰
る。夫。れ。長。所。小。用。ひ。各。其。身。の。分。成。尽。さ。る。國。政。日。に
明。り。小。君。德。月。々。盛。ん。小。下。業。を。た。の。む。人。を。撰。び
用。ひ。疑。ふ。心。あ。る。人。才。を。得。る。事。が。能。人。の。長。短
得。失。成。あ。つ。る。其。長。が。所。其。得。た。る。處。小。用。ふ。あ。る。
是。聖。人。人。を。用。ひ。れ。要。た。る。中。古。文。化。を。し。網。紀。み。し。
たり。と。い。と。山。本。勘。次。晴。幸。其。主。氏。田。晴。信。朝。臣。へ。古
府。中。八。幡。の。神。前。小。あ。る。兵。法。の。秘。奧。相。傳。あ。す。と
あ。塞。ふ。火。を。た。り。せ。聲。小。茶。を。挽。せ。盲。小。物。を。聴。き。し。
人。並。小。ま。さ。る。か。の。み。と。不。具。あ。る。人。と。其。長
所。小。用。ひ。時。に。其。能。を。つ。つ。す。況。や。五。身。全。く。人。よ。か。め
る。あ。は。是。を。く。用。ひ。人。君。の。要。た。る。と。い。ひ。晴。信

朝臣。是勸みの言ふあり。八幡乃御説誼あり。深く
信したまひ。是より人を用ゐるの實を得るべきことなり。此言いと
浅近なり。いと。天地の棄物なり。聖人小棄人なり。とい
つゝ。あきくけ言をいひなむ。又此頃常山記談
戎讀たゞに。備前湯浅新井衛著水戸義公會津土津義我芳烈
侯。非常れ君といふ處。と記され。上杉鷹山侯も。
此御方くにもたよりたふす。とたのひ侍る。各其御事
蹟談記。しるし物。不詳なるあり。しるし小記。其も土
津侯の御言行を記せし書。侯の官及内過來の五
つ。は。き。御慎あり。常れ御さ。し。小。貴賤と
る。家。は。き。身。は。き。む。る。入。要。此五つは。御慎
と。御教誡あり。誠あり。が。き。事。も。也。夫

付鶴葉先生の民ハ王者レ天ト云の説此御方一の御事
蹟小ある。し。け。し。し。駿臺雜誌。抄出。し。ぬ。王者以
民爲天。民以食爲天。はの意。い。ん。坐中獨。民ハあ。き。邦
れ本あり。民歸。し。邦存。し。民。は。邦。の存
亡ハ民あり。故。王者ハ常小民を尊んで天とす。食ハ民
命也。食を得。し。民。い。こ。食。は。う。し。民死す。民乃死
生ハ食あり。故小民ハ食を尊んで天とす。といふの意あり。天
翁。是ハ農をく。ん。む。を主意。し。て。い。ふ。ふ。天
人。生。し。れ。又五穀。生。し。て人乃食とす。人あり。食
あり。食。は。け。し。人。し。天下。豈。食。より重き物あり。ん
や。民ハ天下れたるに食を生むるをの也。夫。天とす
王者ハあ。き。けた。し。王者ハ民を尊んで天とす。

一夫をも輕慢まじくす。昔、諸國の民教を志すハ籍
賦王は献ぎしハ王を拜して更とす。孔子は民教の籍
を負たる者あり。式にたす。又民とてハたすべ
し。天より我人命を續る。天下の大切なる物を。我等小
渡し作しめたま。民は食は仰ぎ載て天とて。一と
かりふも耕作を粗畧まじくす。是風俗の本。治乱に係
る所あり。昔三代の時。上は民をまつ。天とて心あり
ゆへ租税を薄く。山歎を極め困厄流離する事な
らむ。よりて郡縣の民土着小安。農業をつら。五
穀を出し。君上小奉。食をまつ。天とて心なり
し。其風をのつかり市朝小移。より。士大夫は
め。商賈等小至る。大根勤儉より。華奢は
まじくす。

め。遊惰は俗ある。然聞す。暴秦に至る。民を天とする心
なり。祖。頭會集歛。民小虐。恥より。やまより。一
より。郡國離叛。四方土の。崩る。天下は乱。民間
より起る。やま。冬漢起る。天下恭平無事。小
し。かども。逐末射利。徒日に出来て。富商大賈封侯
ふ。食貨は權を。いふせ。村閭の民もそれ
化して。豪華なる。游俠は事す。賈誼が治安の疏
見。然き。上は民を天とて。心なり。然りて。心
は。詔を下し。農は天下の本。事と。郡國小告諭。租を
免し。復をたす。郡吏は貪欲を。其。上は孝悌。力田
を。下を率ひ。唯つ。本を崇め。末は抑え。これ。後
文景の時。君臣恭儉。一。集厚。致せ。三代以後

乃沽世とをふべし。もとて古今考ふに郡縣の風市朝ふ
移る。市朝け風郡縣は移るあり。市朝乃風の奢侈
貴し。郡縣の風の撲素を失ふ。近來市朝の事承るに
國は貧墨乃吏あり。郷は貨殖の家あり。乃きも公の
法禁せしむ。貨賂を遠く見ゆれど。私利欲
成つ。宴樂を好む。然を私智成逞。己が愚
己が愚。上を欺る人成。歌舞艷を競ひ。一日乃費
數十百金。たれと互は是を風流と。たれとを
を。女を儉素正直。人を見て。是成。嘲り笑ふ。獨の
辭。衆楚の咻。きをいふ。終は一統の風と成る。

田舎。見お。華美。詐偽。な
ろ。事。世。驕奢。成
貴。其費用過分。につけ。己が諸欲。成。成
金銀を貪む。め。天下に金銀。常に
有力の人の為。小兼辨。たの。流行。も滞る
か。夫小金銀。世成。減。米穀。年成。逐。生。成
の。金銀。日小貴。米穀。日小賤。食禄。乃士。い
。米穀。も。貴き金銀。易。に。家。貴。い。よ
。貨殖の家。貴き金銀。も。い。よ。米穀。を。買。不
。家。貴。い。よ。餘。然。に。有。教。の。金。銀。を。も。無。限。驕
。成。き。有。用。の。金。銀。を。も。無。用。の。物。を。費。し。め。る。い。ふ
。金。銀。日。虚。耗。し。あ。る。民。間。は。流。行。せ。る。粒

米狼戾して。價廉るれども。閭里の貧民ハ。それ求うち
かきけ。富民ハ常小膏粱小厭と。かきけ。菜色あり
人あり。富民ハ常肥耳飽と。かきけ。餓死する人あり
中ハ惡性ある者。いつか死を救んと。法禁を犯し。
盜賊をもふるか。其本源風俗の驕奢より出。一朝
一夕の事にあふ。されど此六七十一年以前ま。世間今
も猶奢華なり。もとより驕奢ハ好む俗。ありな
う。儉素ハ尚ぶの人多くありき。如何と。其頃ハ
前代乃故老あり。國は残り。いつと。其父祖若
て。時より。晝夜草野小起臥して。汗馬野戰といふ
なり。華奢風流の事ハ夢おもふ。其子孫も
家風ふなり。今も田舎風あり。うと。おのづか

ら文なり。質小あり。仮小を虚なり。て実あり
つ。甲斐く志く頼も。きりも。やう小情あり。
り。さやう人失。在朝の士大夫。世禄は浴
し。泰平より。事に。事法。小。宴安をのめ
り。其鳩毒なる事をさ。驕奢淫佚。至
るを怪む。ふた。す。貸殖の家。遊俠徒。論
する事なり。されハ其弊郡縣小移。といふ。
今もも田舎。さ。古風残り。市朝。同。の
ふもあ。元来民ハ。小。下。農暴なる。大
惡をも人あり。又一。小。分別。小。難儀
は。已。怒。堪。上。た。あ。事。あ。れ。と。大
や。市朝。人。邪智。を。人。を。た。あ。事。

いなり程ふおのけり直なり方ものる恵は感ト
そ。理ふたを速う也己の産業だふあき。いつた
事事をあふか。唯郡長たる人。民を天とす。心
はるすれず。歳に豊凶随ひて。賦税法上下。飢寒
れ患る。父母を養ひ。妻子法畜ふた。に相ふ
るひる。民安堵。永く流離の愁ひなり。ま
さる上ふ。條法設けて。威刑を定め。遊惰は
しめ。驕奢を禁ぶ。一郡感服。好風俗となす
。も。市朝ふらう。今市朝あつて。人敢たび
た。天下の郡縣。比ふ。十分の一。もた
ふ。それ市朝の風盛んあれ。郡縣を移せ

か。況四方の郡縣。各安堵。集厚なり。其風天
下へ移る。樸實日小勝。華靡日小減。人志。驕奢の風
や。變。儉素は復せん。かひなき。右駁皇雜話の文を。其まに。取出。同志。此れ。見。人。心。つ。く。ま。なり。

首書
画入
六諭衍義大意附録上之卷
終

